

2013 年日本建築学会文化賞

選 考 経 過

日本建築学会文化賞は、建築文化の向上、建築への理解と認識向上等に貢献した優れた業績であって、原則として会員以外の方の業績を対象として、毎年3件を基準として表彰している。候補業績は一般公募を行わず、本会内の特定機関、すなわち本会9支部、36支所、15常置調査研究委員会からの推薦によるものとされ、文化賞選考委員会委員も推薦できることになっている。本年の候補については、2012年8月に支部・支所・常置調査研究委員会に推薦を依頼し、12月14日に推薦を締め切り、合計5件の候補業績が推薦されてきた。

選考手順は、選考委員会開催前に各委員に対し候補業績の関係資料を送付し、事前に各委員が下審査を行ったうえ、選考委員会当日に各委員が表彰すべきと判断した業績について講評または所見を求めることにした。

1月24日に文化賞選考委員会を開催し、選考方法、業績数などを確認したうえで出席委員が各自講評または所見を述べた後、各業績について総合的討論を行い慎重に検討を行った。その結果「土佐和紙を中心に伝統を究めた技での表具の作製とそれらの現代建築への展開・適用」により上田博康殿、「永年にわたる建築展覧会・建築講演会・建築出版を通じての建築文化の向上と発展への貢献」により遠藤信行殿、「砺波平野の散居村に関する持続的研究とその継承活動による地域の建築文化への貢献」により佐伯安一殿の3名のご業績に対して2013年日本建築学会文化賞をお贈りすることにした。